

【田原市博物館 テーマ展】

風景を描く—日本画家たちが見た景色—

令和6年10月5日(土)～11月24日(日)

理想の風景、創造の景色、日常の風景など華椿系の画家や日本画家たちが描く風景をご覧ください。

展示室

特別展示室

指定	作者	作品名	制作年	材質	形状	備考
	たに ぶんちよう 谷 文晁	せんざんぼんすいず 千山万水図	文化4(1807)年	紙本着色	掛幅	柴野栗山賛
	たに ぶんちよう 谷 文晁	こうしきろず 高士騎驢図	文化5(1808)年	絹本着色	掛幅	
	たに ぶんちよう 谷 文晁	にほんめいざんず 日本名山図絵	文化9(1812)年	紙本版画	版本	
重文	わたなべかざん 渡辺華山	いつそうひやくたいず 一掃百態図	文政元(1818)年	紙本墨画淡彩	冊子	
	渡辺華山	せつきんこういんず 雪山高隠図	天保8(1837)年	絹本着色	掛幅	
	つばき ちんざん 椿 椿山	さんすいず 山水図	天保14(1843)年	紙本墨画	掛幅	
	ふくだはんこう 福田半香 画 はぎわらしゅうげん 萩原秋巖 書	こうとうひつずいちよう 興到筆随帖	天保13(1842)年	絹本着色	画帖	
	ひらいけんさい 平井顕斎 やまときんこく 山本葉谷	しよくさんどうず 蜀栈道図	嘉永4(1851)年	絹本着色	掛幅	
	さいとうこうぎょく 斎藤香玉	りよくいんざんぼうず 緑陰山房図	江戸時代後期	紙本着色	掛幅	
	いのうえちくいつ 井上竹逸	しゅうけいざんすいず 秋景山水図	元治元(1864)年	紙本淡彩	掛幅	
	いのうえちくいつ 井上竹逸	しゅんけいざんすいず 春景山水図	元治元(1864)年	紙本淡彩	掛幅	個人蔵
	すずき がこ 鈴木鶯湖	りょうごくぼしのうりようず 両国橋納涼図	元治元(1864)年	紙本淡彩	掛幅	
	いのうえちくいつ 井上竹逸	ばんりちようこうざかん 万里長江図巻	明治11(1878)年	紙本墨画淡彩	卷子	
	まつばやしけいづつ 松林桂月	さんすいずびょうぶ 山水図屏風	昭和時代	絹本金地墨画	屏風	
初公開	こむろすいろうん 小室翠雲	きくふうひょうせつず 朔風瓢雪図	昭和時代中期	絹本墨画淡彩	掛幅	
	しら いえんがん 白井烟崑	しゅうけいざんすいず 秋景山水図	昭和13(1938)年	絹本着色	掛幅	
	あきみこうじょう 朝見香城	しゅんじゅうざんすいずびょうぶ 春秋山水図屏風	昭和時代	絹本金地着色	屏風	六曲一双

重文＝重要文化財

標記のないものは全て当館所蔵

田原市博物館

<作者紹介>

渡辺華山 寛政5(1793)年～天保12(1841)年

渡辺定通の長男として、江戸に生まれました。はじめ平山文鏡に師事し、白川芝山、金子金陵、谷文晁らに絵を学びました。華山は写実的な描写にこだわりました。特に肖像画を得意とし、西洋の陰影法を巧みに使い、独自の画風を確立しました。

椿 椿山 享和元(1801)年～嘉永7(1854)年

はじめ金子金陵に師事しました。金陵が亡くなった後、同じく金陵の門下であった渡辺華山の弟子になります。蛭社の獄で華山が逮捕された際は、その救済に奔走しました。華山没後は、華山の家族を献身的に支えました。花鳥画を得意とし、輪郭線を描かない方法で花卉図などを多く制作しました。

谷 文晁 宝暦13(1763)年～天保11(1840)年

田安家家臣で詩人でもあった谷麓谷の子として江戸に生まれました。はじめ加藤文麗、渡辺玄対に絵を学びました。寛政4(1792)年、白河藩主松平定信の近習となり、『集古十種』などを編纂しました。当時の画壇の重鎮として活躍し、渡辺華山をはじめ多くの弟子を輩出しました。

平井顕斎 享和2(1802)年～安政3(1856)年

遠江国川崎(現在の静岡県牧之原市)に生まれました。はじめ掛川藩御用絵師の村松以弘に、のち江戸に出て谷文晁、渡辺華山に師事しました。顕斎は華山の作品を丹念に模写し、山水画を最も得意としました。

福田半香 文化元(1804)年～元治元(1864)年

遠江国見附(静岡県磐田市)で生まれました。はじめ掛川藩の絵師村松以弘、続いて勾田台嶺に絵を学びました。天保4(1833)年、渡辺華山を訪ね、その後華山の弟子になります。半香は花鳥画も描きましたが、山水画を得意とし、晩年になると水墨の山水画を描くようになりました。

萩原秋巖 享和3(1803)年～明治10(1877)年

江戸時代後期の書家です。書は幕末の三筆の一人である巻菱湖に学びました。主な著書に『書法薈粹』、『十体源流』などがあります。

山本梨谷 文化8(1811)年～明治6(1873)年

石見国津和野(現在の島根県津和野市)で生まれました。はじめ津和野藩家老の多胡逸斎に絵を学びました。江戸へ出府後、渡辺華山の弟子になり、天保11(1840)年には椿椿山へ入門します。嘉永6(1853)年、津和野藩絵師になりました。山水画や人物画を得意としました。

斎藤香玉 文化11(1814)年～明治3(1870)年

上野国緑野村(現群馬県藤岡市)に代官斎藤市之進の三子として生まれました。10歳で父と知己であった

華山に師事し、蛭社の獄では父娘とも華山の救済活動に奔走しました。山水画を得意としました。華山から田原蟄居中に斎藤家に宛てた手紙もあり、斎藤家と華山との交遊も知られます。

井上竹逸 文化11(1814)年～明治19(1886)年

幕臣梶川氏に仕える武士の家に生まれました。17歳から華山の家を出入りし、弟子となります。天保10(1839)年～12(1841)年にかけて長崎奉行田口喜行の家臣として長崎に滞在した際に、砲術を高島秋帆に学びました。山水画を得意としていました。

鈴木鷺湖 文化13(1816)年～明治3(1870)年

下総国(現在の千葉県)に農家に生まれました。名は雄、晩年に鷺湖と称しました。江戸に出て谷文晁に絵を学びました。谷文晁の画風を受け継ぎ、代表作に「蜀の栈道図」(千葉県立美術館蔵)などがあります。次男に石井鼎湖、孫に石井柏亭がおり、3代にわたって画壇で活躍しました。

小室翠雲 明治7(1874)年～昭和20(1945)年

画家である小室牧三郎の長男として現在の群馬県館林市に生まれました。田崎草雲に師事して南画を習います。日本美術協会展などに出品し受章を重ね、文展の審査員も務めました。昭和17(1942)年に南画鑑賞会を設立し『南画鑑賞』を刊行、昭和19年に帝室技芸員に任命されました。

松林桂月 明治9(1876)年～昭和38(1963)年

山口県萩市に生まれました。明治26(1893)年に上京し、翌年、野口幽谷の弟子になります。日本美術協会展や文展に出品し続け、南画界の重鎮と言われます。昭和19(1944)年、優秀な美術家へ与えられる帝室技芸員に任命され、昭和33(1958)年には文化勲章を受けました。

白井烟嵩 明治27(1894)年～昭和51(1976)年

豊橋市花田町に生まれました。16歳より従兄の白井永川に南画を学びます。松林桂月に師事し、大正9(1920)年、第2回帝展初入選以後、新文展や戦後は日展へ出品しました。昭和49(1974)年、渡辺華山顕彰の功績が認められ、田原町町政功労者として表彰されました。

朝見香城 明治23(1890)年～昭和49(1974)年

兵庫県飾西郡青山(現在の姫路市青山)に生まれました。本名は寅二郎。大正4(1915)年、第9回文展に「陶器窯図」を出品して初入選しました。西山翠嶂に師事し、名古屋を拠点として制作を続けました。昭和25(1950)年、愛知県文化功労章を受け、後進の指導にも尽力しました。